



「来年は山口で会いましょう」と、交流会でアピールするグリーンコープやまぐち生協理事長の佐々木春代さん（左）



第1分科会の様子。やまぐちの佐々木春代さん（右）と久保かおりさん（左）は、せっけんが汚れる仕組みを楽しく分かりやすくエプロンシアターで伝える取り組みを紹介しました



グリーンコープは、環境を守るために一人ひとりができることとして、生活の「洗う」場面すべてに“せっけんを使う”ことを提案しています。

3月に共同体組織委員会主催で行われた「せっけん学習会」と、5月に札幌市で開催された「2018シャボン玉フォーラムin北海道」の様子を報告します。

2018シャボン玉フォーラムin北海道

「大地が育むいのちと水」 未来をつくるのは私たち

シャボン玉フォーラムは、「せっけんを入り口に、環境を考える」ことを目的に、せっけん運動ネットワークが主催して毎年開催されています。せっけんの利用を広げ、環境を守る運動に取り組んでいる全国の生協などの団体が参加しています。5月12・13日に札幌市で開催された「2018シャボン玉フォーラムin北海道」に、グリーンコープから18人の組合員が参加しました。

共にせっけんをすすめる仲間との出会いと学び

1日目のせっけん利用伸長率優秀団体として、グリーンコープ生協（島根）が他団体とともに紹介されました。

基調講演として、NPO法人霧多布湿原ナショナルトラストの三膳時子さんによる「大地が育むいのちと水」霧多布湿原から、続いて、北海道

道大学大学院名誉教授の小野有五さんによる「北海道の自然を残すために」が行われ、豊かな自然を守るうと地域ぐるみで取り組まれている様子が報告されました。

2日目は5つの分科会が開かれました。第1分科会では、「せっけんカフェ」と題し、グリーンコープやまぐち生協（以下、やまぐち）をはじめ、3つの「せっけん派」生

協から報告がありました。

やまぐちでは、「自分の言葉で良さを伝え広めてせっけんを利用する仲間を増やそう」と、様々な取り組みを行っています。分科会では、やまぐちの組合員が、親子で参加する企画の中で楽しくせっけんを伝える取り組みを実演しました。

それぞれの生協からアイデア溢れる報告が行われた後、参加者はグループに分かれ、「せっけんの使い方いろいろ」という共通テーマを基にディスカッション。グループ毎に進行役を決め、互いの活動の様子など情報をしっかりと共有し、充実した時間となりました。

豊かな自然を守るためにできることをみんなで考えた2日間でした

2018年5月12日・13日、「シャボン玉フォーラムin北海道 大地が育むいのちと水」未来をつくるのは私たち」が開催され、全国からせっけん運動に取り組む生協などの団体が参加しました。アイヌ古式舞踊のオープニングに続き、湿原を守るための地域ぐるみでの環境保全と豊かな自然を守るための提言などが行われました。北海道ならではの壮大なテーマを通して、恵まれた大地で暮らす私たちが子どもたちに残すべき大切なものは何か、そのためにできることは何かを2日間にわたる講演や分科会を通して学習し、交流を深めました。

グリーンコープやまぐち生協 理事長 佐々木春代さん

2018年度せっけん学習会 共同体組織委員会 主催

せっけんを伝える チャンスはたくさんある

共同体組織委員会は今年度のせっけんの取り組みのスタートとして、3月22日、宮城県でせっけんの利用を広げるために活動している高崎かおりさんを招いて「2018年度せっけん学習会」を開催しました。組合員109人が参加し、今後のグリーンコープのせっけん商品の利用普及に活かせる学習となりました。

要旨を紹介します。



講師 高崎かおりさん

元あいコープみやぎ理事。石けん環境委員会を担当。現在は会社経営の傍ら、NPO法人とうほく食育実践協会で石けん活動を担当

会は、日常生活の中にあつていき、下水を浄化する微生物に大きな影響を与え、水質が悪化します。合成洗剤は、「この量で洗えばどんな洗濯物でも大丈夫」というのが謳い文句。しかし本来洗剤は、洗う物の汚れの度合いなどに合わせて、量を調節するものです。自分流のせっけんの使い方や洗濯方法があることに、気がついてほしいと思います。

せっけんで自分流の洗いをみつけよう

合成洗剤とせっけんを、それぞれペットボトルに入れ、水で薄めて同じ濃度にします。次にそのペットボトルを同じように振ると、どちらも中で泡立ちますが、せっけんの界面活性剤は、水で薄めると界面活性作用が弱まり、泡は消えます。一方、合成洗剤の泡はいつまでも消えません。この

「なぜ私は、せっけんを伝えたいのか」を自分に聞いてみてください。この気持ちがあれば、誰でもせっけんを伝えることができます。

の泡の正体が合成界面活性剤です。合成洗剤で泡立つた水は、家庭から排水された水が、下水処理場まで流れていき、下水を浄化する微生物に大きな影響を与え、水質が悪化します。



グリーンコープ生協ふくおか
福岡地域理事長
若松 由香

例年200万人以上の人出でにぎわう「博多どんたく港まつり」。グリーンコープも5月3日に100人を超える組合員・職員・ワーカーズで参加しました。普段は配達に回るトラックも花紙などで飾り付けます。約1.3kmにわたり以前のCM曲である「ずっと」に合わせてパレードします。元気くんとみどりちゃんも一緒に参加したのですが、この2人のなかなかの人気にはびっくり。沿道の人たちに手を振られたり、ハイタッチを求められたり、写真を撮られたり。ただ、ちょっと残念だったのは知名度の低さ…。なかなか名前を呼んでももらえず「おーい」、「りすー」などと呼ばれていました。今年は30周年のキャラクターも登場していますが、元気くんやみどりちゃんもいろいろな場面に登場してもらい、知名度アップに努めたいものです。

私は洋服を買う時、「せっけんで洗えますか」と聞きます。ほとんどの場合、「せっけん?!」と聞き返されますが、そこでせっけんの話をします。電気屋さんでは「せっけんが使える洗濯機はどれですか」と聞いて、せっけんユーザーがいることを知らせます。クリーニング店では、「私はスーツも含め、すべての衣類をせっけんで洗うので、プレスだけお願いします」と伝えます。いろいろな場面です。せっけんユーザーだということを伝えることで、せっけんが使いやすい洗濯機や、せっけんを使うクリーニング店ができるのではと思っています。せっけんの良さに気づいて、使う人が増えることにも繋がります。最近、合成洗剤などの香りが強くなっています。我が家では、それを「化